

## 若狭高校探究座談会(2023/10/23)メモ

- 探究テーマは検証可能なものにする。教師との対話によって、ブラッシュアップしていく。
- 探究テーマは、その生徒が本当に取り組みたいものを選ばせる。
- 探究テーマは大きく抽象的なものではなく、できるだけ細分化して取り組ませる。その際、大谷翔平選手もかつて使っていて有名になった「曼荼羅チャート」を利用している先生もいる。
- 生徒が独自にアンケート調査に走る経験を若狭高校でもしてきた。それを『アンケート地獄』と呼んだ。今は、アンケート調査は原則禁止。まずはインタビューして「あたり」をつけることをさせている。
- 評価は、教師も生徒も評価に縛られることを防ぐため、細かな基準は設けていない。普通の教師と生徒との対話が形成的な評価だと思っている。
- 課題設定時に外部人材(大学教授や経営者など)に来ていただき、課題へのツッコミを入れてもらう。
- SDGsについて紹介はするが、強制はしない。
- 2ヶ月に1回程度、生徒は2グループ程度で探究を語り合う場を設定している。
- 教師同士も探究について有志で語り合う座談会を設けている。(今回は3回目)
- 探究の授業は4・5時間目の週2時間。高校生ということもあり、思い付きで弁当を持ってフィールドワークに出ることもある。
- 1年次はふるさとに関する探究。2, 3年次は自由。国際探究科では3年生が1年生に成果を発表し、後輩はそれを引き継ぐことも可。
- 国際探究科では修学旅行で海外の学校でラウンドテーブル、全員英語で成果を発表。
- 連携する大学と開発した質問項目で生徒にアンケートを行い、生徒の成長や探究活動の課題を反省している。座談会のネタにしている。(全部で100問程度もあるマーク式で4択。質問内容は”課題を設定しなおすことができる。””社会に貢献することができる。”といったもの)
- 調べ学習は悪いことではない。調べ学習をしている生徒に対して、情報の質を問う。1個のデータをうのみにしない。どんどん調べていくうちに深める調べ学習となり探究のサイクルは回っていく。その後フィールドワークにつながっていく。
- テーマに関しては自分の好きなことが一番。そうしないと義務感で探究をしていくことになる。どんなことでも否定せずにやらせてみる。
- 研究ノートなどに記録を残していくとよい。データだとなかなか目を通さないので手書きの記録がよい。ワークシートをストックしていくファイルと研究ノートの2種類があるとよい。高校としても中学校の時にやっていたことがわかる方がよい。
- アンケート、インタビューに関しては、その方法をワークシートを用いて研修している。
- 評価に関しては学期末にルーブリックで評価を行っている。1回の活動の終わりにはノートを提出し、今日できたこと、次回にまでにやらないといけないことをまとめる。
- 教員一人当たりの担当グループは3つくらい。1年生は20人くらいの生徒を担当している。
- 1回の探究の時間に5分でもいいのですべての生徒と面談をするように心がけている。
- 定時制では、1年間の流れが書いてあるプリントと探究学習のテキストを配付している。
- メディアリテラシーの学習を1年生前半に入れている。アンケートの信頼性や質問項目の内容についてなど
- 調べ学習になりそうなテーマでも一回やってみるといい。若狭高校でも数年間は「目的は何?」とか「それで何につながるの?」とか「調べて終わりにならないか?」と聞いていたが、生徒のモチベーションが下が

るのでやめた。調べ学習でもやっていくうちに気になることやわからないことが出てくる。それが学びになる。

- 記録の重要性。途中でボツになってもテーマが変わってもその経過を記録することで有意義な学びになる。
- 毎回の探究の時間の中で生徒と面談して刺激を与えることで学びに深まりが出てくる。
- 文理探究科の生徒と話をしたが、学校ではたくさん実験をして家庭でまとめたりプレゼンを作ったりしているということだった。定期的アウトプットの時間があるのでそのたびにプレゼンを更新している。
- 文理探究科の生徒や先生の話聞いて、家でも取り組みたいと思えるようなテーマが有効だと感じた。定時制には家で飼っているペットの特性を調べるというテーマにした生徒がいて、えさやりなども探究の学びに含まれるので内容が深まっていったそうだった。
- 若手研修として、講師を学校に派遣し、生徒の探究を支える活動をしている。そんな地元企業もある。
- 地域おこし協力隊も学校の探究を盛り上げる人材。
- 探究を走らせるためには、テーマ設定に一番時間をかける。
- アンケート地獄の打開策として、アンケートよりも取材を重視させる。
- 突撃取材(特に、研究者)は学生には協力的。(メールの返信率は高い)
- 海洋科学科の教員は生徒の共同研修者というスタンスでファシリテーションしている。
- 中学校の間にやっておくとよいこと:①思考の過程を残す習慣。(ボールペンで書いて、消しゴム禁止)、②ふりかえりの習慣化